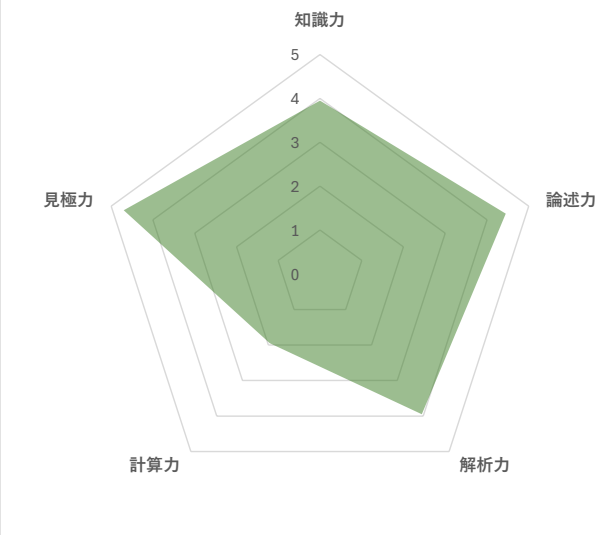


総合分析

試験区分 一般

制限時間 60分(理科2科120分) 大問数 全4問

合格に要する能力 (5段階)

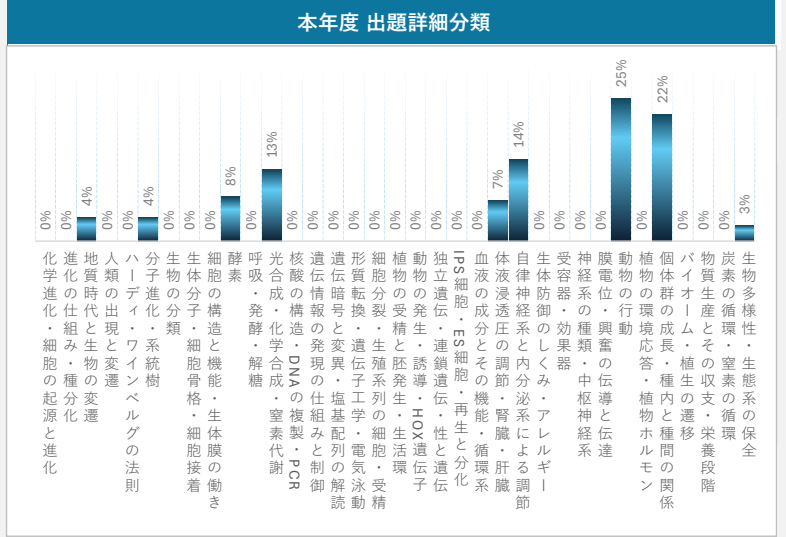


合格に要する能力 (5段階)		
知識力	3.8	出題分野の幅広い知識を有するか
論述力	4.3	設問の指定に沿って的確に記述する力
解析力	3.8	図表データなどから分析・解析する力
計算力	1.8	式を組み立て、正しく計算する力
見極力	4.5	難度を判断し、適切に時間配分する力

出題分野	
系統と進化	8%
生命現象と物質	20%
遺伝子	0%
生殖と発生	0%
生物の環境応答	46%
生態	25%

本年度 解答形式
 論述 100%

本年度出題テーマ一覧	
第1問	腎臓でのグルコース再吸収, 糖尿病
第2問	光合成生物の系統と多様性, カルビン回路と光呼吸
第3問	線虫の学習
第4問	個体間の相互作用, 絶滅の渦



特殊問題の有無 数理生物学なし 生物物理なし ノーベル賞なし 範囲外問題なし 長文論述あり

特記事項 特になし

総合評価

難度	3.7	最難を5とする問題自体の難度	やや難しい	一次合格に必要な正答率 (予想)	61%
分量	70分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	やや多い	標準	

入試の特徴と対策 標準的なバランスのよい問題で、高校での学習で十分に対応できる。

入試から見る 大学が求める学生像 東京慈恵会医大の問題は大問ごとに難易度が大きく異なることと、記述量が多いため制限時間内に解答を仕上げるのは至難であるのが特徴である。標準問題を得点し、残った問題の中で「自分が解けそうな問題」を見極め、そこに時間をかけて得点する必要がある。ただし、高校生物の範囲を逸脱した内容が出題されるわけではないので、高校生物を満遍なくしっかりと学習しておくことが望まれている。